

ドイツ・バイエルン州における森の幼稚園の認可過程 ——森と自然幼稚園連盟・行政・乳幼児教育研究所へのインタビューを通して——

大道香織*・木戸啓絵**・山口美和***

(令和6年10月1日受付；令和6年10月23日受理)

要 旨

本研究の目的は、ドイツ・バイエルン州における森の幼稚園の歴史的な認可過程を明らかにし、また認可をするにあたり何が重視されていたのかを検討することである。バイエルン州を中心として認可を先導してきた州の森の幼稚園連盟 (Landesverband Wald- und Naturkindergärten in Bayern) や、認可の可否を決める保育課の行政 (Landeshauptstadt München Referat für Bildung und Sport Geschäftsbereich KITA)、および州立乳幼児教育研究所 (Staatsinstitut für Frühpädagogik und Medienkompetenz: IFP) におけるインタビューの語りを検討した結果、以下の3点が明らかとなった。1点目は、森の幼稚園と他の就学前施設 (幼稚園) の認可に至るまでの構造は基本的に同じ構造であるということ、またバイエルン州の児童教育法 (Bayrisches Kinderbildungsgesetz: BayKiBiG)、バイエルン州の教育要領 (Bayerischen Bildungs- und Erziehungsplan: BayBEP) の改定の時期に合わせ、園舎 (建物) を持たない森の幼稚園の実態に即して運営及び認可の基準が変更されたことである。2点目に、森の幼稚園は教育要領にも沿っており、保育の質が保障されているということを運営に携わる保護者、保育者、連盟等が協力し伝え、また行政も保育の質を重視していたことにより認可に至ったことである。3点目に、森の幼稚園とESDの関連性について森の幼稚園の保育は持続可能性の基盤であるとともに自然体験の価値の重要性が語られており、このような背景のもと森の幼稚園の認可が進められたことである。

KEY WORDS

森の幼稚園, ドイツ・バイエルン州, 認可過程, インタビュー

1 はじめに

1.1 問題の所在

森の幼稚園とは、自然の中でどのような季節、天気でも野外で活動を行う、ドアと壁がない幼稚園である (e.g., Bickel 2001; Henkel 2006)¹⁾。このような園舎を持たずに毎日野外で活動するドイツの森の幼稚園は幼児教育機関である「幼稚園」としての認可を受けており、幼稚園教諭等の資格を取得する際の実習先へ選択することも可能である (大道 2023)。ドイツにおける森の幼稚園は、中国 (Wang 2020) や、アメリカ (American Forest kindergarten Association n.d.)、及び日本 (NPO法人森のようちえん全国ネットワーク連盟 2024) 等のモデルとなっている。

日本国内におけるドイツの森の幼稚園に関する先行研究では、歴史的な経緯や理念について (e.g., 百合草 2014; 木戸 2010)、保育者と子どもの関わりに関すること (e.g., 山本ら 2013; 後藤 2016)、自然活動に対する保育観について (大道・渡邊・富田 2023) 等も報告されている。ドイツにおいても森の幼稚園の保育実践について多様な報告がなされてきた (e.g., Miklitz 2015; Schmitz 2017)。ドイツにおいては、幼児教育や教育の分野に限らず、心理学、医学、衛生の分野等においても、森の幼稚園の実践に基づいた先行研究が散見される。例えば医学の分野では Weisshaar et al. (2006) は、マダニに刺されるリスクが既存の幼稚園の子どもたちに比べて森の幼稚園の子どもたちは2.8倍あるとの報告もある。日常的に森で過ごしているからこそ起こる森の幼稚園のリスク等も先行研究として存在している。

またドイツでは「森の幼稚園教育学 (Waldkindergartenpädagogik)」(Kuhlmann 2004) といった森の幼稚園における教育学の理論が存在していたり、「自然空間教育学 (Naturraumpädagogik)」(Wolfram 2018)、「自然遊び教育学 (Natur Spielpädagogik)」(Kohler & Schulte-Ostermann 2015) 等、森の幼稚園に限らず自然と教育学を結び付けた理論が存在していたりする。このように森の幼稚園は実践を重ねる中で、歴史とともに理論も発展してきたと考えられる。中でも、「自然遊び教育学 (Natur Spielpädagogik)」は、ドイツの自然及び森の幼稚園連合会の会長である Ute Schulte-Ostermann氏が提唱しており、ドイツのユネスコ委員会によって公式の国連10年プロジェクトのESD

*広島大学大学院博士課程 **東海大学 ***発達支援・心理臨床教育学系

(Education for Sustainable Development : Bildung für nachhaltige Entwicklung : 持続可能な開発のための教育 : 以下ESD) であることが正式に認められている。自然や環境教育だけでなく教育学や心理学も組み合わせられており、大学機関で行われている資格の取れる研修 (Weiterbildung) である (Fachhochschule Kiel 2024a)。具体的には、自然と環境教育、発見的学習、幼稚園におけるESDについて学ぶことができる等 (Fachhochschule Kiel 2024b)、様々な教育者に向けての研修 (Weiterbildung) として実施されている。例えば自然と環境教育 (Fachhochschule Kiel 2024c) の中では、自然や生態系の知識について実践等から学ぶことが記されている。また、自然への関心や自然を楽しむことを喚起させるだけでなく、自然と人間の関係において人為的 (人間の) 介入に限度を持つことの必要性、子どもや若者が日常的に自然環境に触れあえることの重要性等が記されている。

現在の日本においては、就学前施設としての「森のようちえん」は広まりつつも、認可制度や財政面等の法制度が十分整っていない等の課題がある (杉山 2015)。また、ドイツ等をモデルにしている自然を重視した「森のようちえん」としての取り組みはあるものの (大道・山田 2022)、園舎を持たずに毎日野外で活動する「森のようちえん」は、文部科学省の定める幼児教育機関である「幼稚園」として認められてはいない。ドイツにおいては、森の幼稚園は1993年以降に正式な認可制度が受け入れられ広まった経緯がある (Henkel 2006)。実際に幼稚園の運営や設立をする場合には法制度を遵守しなければならない。諸外国においてモデルとされている先進的なドイツでは、森の幼稚園が認可される際に、どのような認可過程があり、幼児教育機関として認められたのであろうか。

1. 2 先行研究の検討

ドイツの森の幼稚園の認可過程については、Miklitz (2015) がバーデン＝ヴュルテンベルク州における森の幼稚園の運営の基準を示している。ここでは、州青少年局による運営許可の付与基準の詳細や連邦森林法や州の法規定などについても整理されている。また、木戸 (2015) は、ノルトライン＝ヴェストファーレン州の就学前施設の認可基準と公的補助について、関係省庁の情報や州法の規定を踏まえながら、具体的事例に即して、森の幼稚園設立・運営過程の実態を明らかにした。なおノルトライン＝ヴェストファーレン州では、2008年に州法である児童教育法 (KiBiz : Kinderbildungsgesetz) が改正され、条文のなかに「森の幼稚園」という文言がはじめて追加されるとともに (KiBiz 第20条3項)、財政援助等に関する規定が示された (木戸 2015 : 123-125)²⁾。しかし、ノルトライン＝ヴェストファーレン州の1園の森の幼稚園の設立認可の事例をインタビュー等に基づいて報告しているにとどまっている。また連邦や州レベルでの方向性や、より具体的な行政機関の指針等を検討する必要性が指摘されている (木戸 2015)。ドイツは、16の州からなる連邦制国家であり、各州に権限が委ねられている。州ごとに定められた法的な基準のもと教育政策が策定されており、州によっても認可過程や運営実態においても少なからず違いが見られる³⁾。

このように先行研究では、森の幼稚園の認可過程については、運営者個人やその関係者を対象とした研究は行われてきたが、実際に認可の可否の決定に携わる研究機関や行政機関等を対象とした研究は、これまで十分に行われていない。森の幼稚園という就学前施設の一形態が、行政から公的な認可の対象として認められるまでの歴史的な背景の詳細や、個々の森の幼稚園が行政のどのような基準に則して、幼児教育機関として認可されたのかその具体については明らかになっていない。森の幼稚園がドイツ国内で急増した2000年代に、どのように法的な手続きを経て園運営を進めてきたのか、また、実際に認可の可否の判断において影響力の強い研究機関や行政機関が、認可過程でどのような点を重視していたのか明らかにする意義は大きい。

1. 3 本研究の目的

本研究においては、バイエルン州を中心として認可を先導してきた州の森の幼稚園連盟や、認可有無を決める保育課の行政、および州立乳幼児教育研究所におけるインタビューを通して、森の幼稚園の歴史的な認可過程を明らかにし、また何を重視して認可に至ったのかを、語りの内容の分析、ならびにドイツの教育に関する州法や、森の幼稚園の位置付け等から検討する。

2 調査の概要

2. 1 調査対象

本研究の研究協力者は、バイエルン州森と自然幼稚園連盟 (Landesverband Wald- und Naturkindergärten in Bayern e.V. ; 以下、「連盟」とする)⁴⁾の理事 (会長及び会計担当者) 2名、ミュンヘン市教育・スポーツ局保育課 (Landeshauptstadt München Referat für Bildung und Sport Geschäftsbereich KITA ; 以下、「保育課」とする) の担当者1名、バイエルン州立乳幼児教育研究所 (Staatsinstitut für Frühpädagogik und Medienkompetenz : IFP ; 以

下IFPとする)の担当者3名である。バイエルン州の研究協力者については、筆頭著者と通訳者とのラポールが形成されていることから選定した。バイエルン州は、ドイツ南部に位置し国内最大面積をもつ州であり、豊富な自然環境を有しながらも産業化の進んだ州であり、経済的にも豊かな州である。さらに、森の幼稚園の数もバイエルン州内だけでも、およそ200園近く存在しており (BvNW 2024b) 州独自の団体である「バイエルン州森と自然幼稚園連盟 (Landesverband Wald- und Naturkindergärten in Bayern e.V.)」による教員研修や保育の質の担保に関する活動を精力的に行っている地域である (木戸 2015:123)。本研究では、こうした背景をもつことからバイエルン州の取り組みに着目する。

2. 2 調査方法及び調査期間

調査方法は、ICレコーダーの録音および適宜自由記述形式のメモによる記録を併用した半構造化インタビューであった。音声の録音データがあるものは、音声の不具合を除きすべて逐語録に起こした。具体的には、森の幼稚園の認可について、認可にあたっての基準・条件、他の就学前施設 (幼稚園) との違いは何かという認可過程に関する内容のインタビューを行った。

調査期間は2023年9月11日~25日で、その内の3日間を各施設 (バイエルン州の森の幼稚園、保育課、IFP) に直接訪問をした。連盟に対するインタビューは、バイエルン州の森の幼稚園に訪問した際に実施した。インタビュー時間は通訳者の通訳を含め、連盟が約3時間、保育課が約1時間、IFPが約2時間であった。また通訳者は長年ドイツに在住の日本人で、日本とドイツにおける幼児教育の専門用語に詳しい2名の保育者に依頼をした。どちらもバイエルン州の就学前施設に勤務しており、1名はミュンヘン市の公立幼稚園、もう1名は森の幼稚園の保育者である。

本研究においては、森の幼稚園が認可を受ける認可過程に焦点をあて、インタビューから語られた内容をインタビューの逐語録の記録 (斜体太字で示す) や、自由形式によるメモの記録から抜粋し、これまで明らかになっている先行研究を交えて考察を行った。また、本調査の実施に際しては、あらかじめ研究協力者に対して、研究目的や研究内容等を記した資料をドイツ語に翻訳して事前に送付した上で、現地でも直接説明を行い、同意及び了承を得て実施した。

3 結果と考察

3. 1 バイエルン州森の幼稚園における認可過程の構造

連盟の2名の理事より語られた中で、バイエルン州における森の幼稚園の歴史的な認可過程の構造が明らかとなった。バイエルン州では2000年頃から森の幼稚園の認可に向けての動きがあり2005年には認可されたという。連邦制であり州により違いはあるものの、バイエルン州ではたった数年で幼児教育機関としての認可を得た「幼稚園」になったことが語られていた。また、認可のシステムが複雑であることが語られ、認可過程の構造について図解にしながら説明があった (Figure.1, 2)。認可過程の構造には主に2点について語られていた。

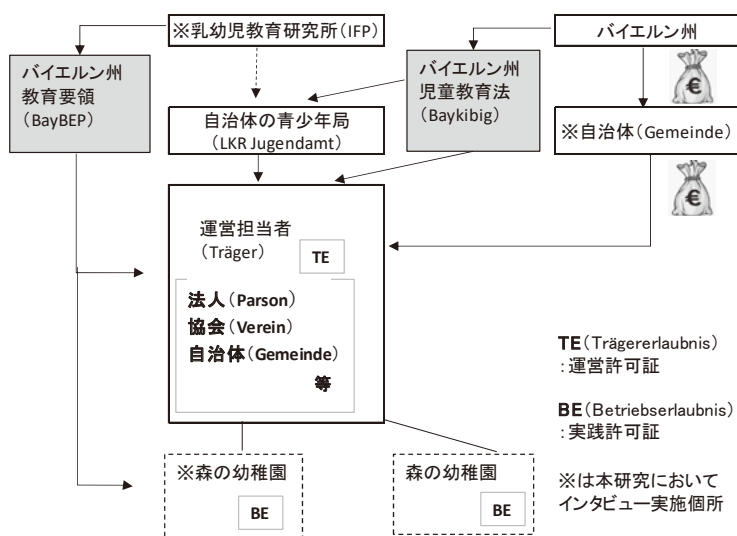


Figure.1 バイエルン州森の幼稚園における認可過程の構造

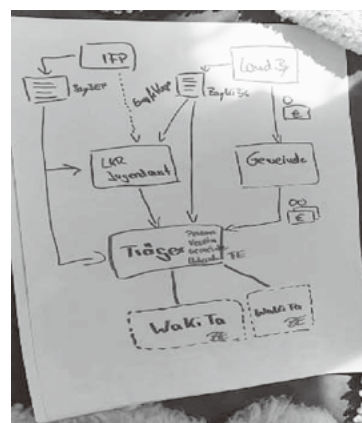


Figure.2 認可過程の構造 (実際の写真)

1点目は、森の幼稚園の認可過程は、他の就学前施設（幼稚園）とも基本は同じ構造であるということである。図解の中では森の幼稚園が運営担当者の下にあるが、既存の幼稚園も同様の構造となるという。また、バイエルン州が児童教育法（Bayrisches Kinderbildungsgesetz：BayKiBiG）を出しており、IFPがバイエルン州の教育要領（Bayerischen Bildungs- und Erziehungsplan：BayBEP）を作成していること、またそれらの改定の時期に合わせ森の幼稚園の認可のために変更したことが語られていた。

「バイエルン州行政の方でいづれにせよ、（森の幼稚園の認可について）働きかける事で受け入れてもらえる事が比較的容易かったです。その当時の児童教育法（BayKiBiG）がはじめに森の幼稚園の認可を踏まえ改定され、そのあと教育要領（BayBEP）も新しく書き換えられる時期だったのもあり（森に幼稚園の認可が）上手くいきました。（連盟会長理事）」

このように児童教育法（BayKiBiG）や教育要領（BayBEP）が新しく変わる時期に、行政に働きかけたことをきっかけとして森の幼稚園の認可に至ったことがわかる。Figure.1, 2の図解において、連盟の会計理事によると、実際に幼稚園を運営するための許可には二つの種類があるという。運営する法人や連盟や自治体などといった運営担当者に与えられる運営許可証：TE（Trägererlaubnis）と、実際に実践を行う森の幼稚園に与えられる実践許可証：BE（Betriebslaubnis）である。これらは、青年局や自治体等の許可、審査を得て、許可がおりるといふ。許可証においては、犯罪履歴等も確認し、基準を満たしているか等によって許可の有無が決まるといふ。実践許可証の発行においては、パウバークン（一時避難所）の有無など安全に子どもが過ごすことのできる環境かどうか等が検討される。そのため、行政の支援は必要不可欠といえよう。

また、他の既存の幼稚園と同様の認可の構造ではあるものの、森の幼稚園としてのコンセプトを重視して認可の可否を決定していることが考えられる。例えば、バーデン＝ヴュルテンベルク州の教育・青年・スポーツ省の管轄するバーデン＝ヴュルテンベルク州青少年・社会問題自治体連盟による自然保育施設の運営等に関する資料（KVJS 2017：以下、KVJS）によると、連邦法であるドイツの社会法典（Sozialgesetzbuch：以下連邦法）があり、その第8編第45条に施設の運営基準について示されているが（Bundesministerium der Justiz und für Verbraucherschutz：BMJV：ドイツ連邦司法・消費者保護省 2023；以下BMJV）、その運営基準に則って、組織、スタッフ、集団サイズ等を審査して、常設の建物（園舎）がなくても、森の幼稚園は就学前施設として州の教育計画にも沿っていると記されている。また、森の幼稚園の形態において、既存の幼稚園を区別する基準を示しており、自然幼稚園は、総合的な自然教育の概念（eine umfassende naturpädagogische Konzeption）として、子どもたちは毎日一日の大半を屋外で過ごす集団であるとし、「一日のうち何時間かを自然の中で過ごす幼稚園の集団は、自然幼稚園の集団とはいえない」と規定しており、他の既存の幼稚園と差別化をしている。バイエルン州の州議会の議事録（Bayerischer Landtag 2018）の中でも森の幼稚園について取り上げ「森の幼稚園は園舎（建物）がない幼稚園である」と明示されている。このように行政機関においても、森の幼稚園を「園舎はなく自然の中で保育を行う幼稚園」として位置付け、そのコンセプトを重視して法改正を行っているといえよう。ドイツは連邦制ではあるが、森の幼稚園を自然の中でどのような季節、天気でも野外で活動を行う、ドアと壁がない幼稚園（e.g., Bickel 2001, Henkel 2006）として位置付けていることについては、どの州においても基本的には変わりはなく、そのコンセプトを重視した法改正が各州において行われていることが考えられる。

2点目に、森の幼稚園は園舎を持たないため、認可を得るまでに困難があったことである。具体的な内容は、インタビューを抜粋して述べる。

「（以前は）森の幼稚園がなかったので、建物がないから本来の幼児教育ができるのか、役所の方とか認知もできないし許可もできないというような問題点がありました。（中略）（バイエルン州の連盟が）はじまって25年、2000年くらいが転機だったが、個々（の園）が動いていくのでは（認可の制度の状況が）改善していかないという背景があって、みんなで会合して（バイエルン州の連盟ができて）幼児教育機関として、どう認めてもらうかを試行錯誤しました。（連盟会計理事）」

「バイエルンだけでも多種多様でみんなが足並み揃えてできるわけではないけど、認可をされるための基準がしっかりと制定された。（中略）自分たちだけで運営するだけでなく政治、憲法決まり事がある中で、連盟としての働きかけをしなければならぬ、ネガティブ、ポジティブなことなど反応することが大事なことだと思う。意見をすることを集めて政治にもっていくこともある。改善点を政治の方に積極的に働きかけ持っていくこともある。（連盟会長理事）」

このように、これまでの認可を受けているドイツの幼稚園は、園舎があることが前提にあり、それが幼稚園であり就学前施設と呼ばれていたが、それを覆して幼児教育を行うことができるのかという懸念があったようだ。しかし個々の森の幼稚園が集まり、連盟として意見を行政に訴えていったことがわかる。そのため、個々の幼稚園の実践だけでなく、それぞれの森の幼稚園が集結して意見をまとめていったことが、バイエルンの森の幼稚園の認可過程において重要であったことが考えられた。

また、連盟会長理事より、大事なものは、実践許可証（BE）の方であると語られていた。例えば、子どもの人数と

保育者の割合、どこに避難できるか等があり、森の幼稚園は森の幼稚園のための実践許可証（BE）があり、それぞれ実践に合わせて異なるという。子どもの人数に関しては預かる人数に合わせて細かに配置の人数が変わり、子どもの保育時間数によって配置人数が決められ青少年局による監査により許可証通りに実施していない場合、運営不可となるという⁵⁾。それでは、このような困難をどのようにして具体的に行政を説得したのか、その具体について探る。

3. 2 森の幼稚園における保育の質

連盟の会計理事及び会長理事から、教育要領と同等の保育の質⁶⁾が保障されているということを運営に携わる保護者、保育者、連盟が協力し説得し、行政が協働したことにより認可に至ったことが語られた。

「教育要領は森の幼稚園の意見を入れて、今の要領指針がある。境界はなくフィールドは違うだけで、やっていることは同じ、差をなくす、どこも質は同じでクオリティーを保育の資質を高めていこうという方向で決まりました（連盟会計理事）。」

「（森の幼稚園が認可をされていなかった）その当時は、何の認可も補助金も受け取れていない中、“絶対に森の幼稚園をしたい”という想いだけで、保護者からの金銭的収入のみで、本当に少ないお給料で、情熱と想いだけで園を運営していた保育者ばかりだった。（中略）バイエルン州では、建物より幼児教育、実践のプロジェクトがあり、多くの森の幼稚園がそれに参加し、そのプロジェクトを通してほかの教育機関と変わらず、幼児教育を100%満たすことができるか、実践する事が可能かを証明する事ができました。教育要領に沿ってやっているのか、子どもにとって良いか、他の園と変わらないことによってクオリティーを証明するか（が重要であり）、また保育の質の保障を見直し、（きちんと）できている状態をプロジェクト、すごく良い保育（を森の幼稚園では行っているのだ）とって声をあげないと見せられないので（そのような部分を）見せていました。（認可される前は）建物基準がありましたが、まず（行政に対して）保育の質で働きかけ、周りの環境（とは）別な環境を整えること。この状態でも十分に質が担保されていることを、（連盟会長理事や森の幼稚園関係者等から行政に）伝えていきました。（連盟会長理事）」

「補助金に関しては、保護者の寄付や自治体等の行政が、何らかのまたは、様々な手を（時には徴収した法的罰金などをそれに充てて）尽くして、補助金を出せるように働きかけていっていました。（連盟会計理事）」

このように、森の幼稚園の実践を通して蓄積されてきた保育の内容に関する質の高さや、既存園同様に有資格者を必ず置いていること、緊急避難所がある等環境面におけるハード面での質の保障などについて、認可を認めてもらうまでの交渉過程の中で、実践者や保護者（運営者）⁷⁾が行政に訴え、園舎（建物）といった一部のハード面にこだわることなく、その中での安全管理や、保育内容や保育のプロセスといったソフト面において保育の質が担保されていることを示し続けた。森の幼稚園における行政資料においては、例えばKVJS（2017）でも、「様々な教育方法がある中で自然幼稚園の教育方法は成果がある」ことや、「現代の自然から疎外されがちな環境の中で、自然が可能にするホリスティックな初歩的学び（ganzheitliche elementare Lernen）は、人格発達（Persönlichkeitsentwicklung）にとっても重要である」と記されている。その具体的な内容としては、子どもたちの情緒の安定、社会的能力の発達をサポートすること、また想像力、創造力、自発性を発揮できることや、自分の能力に自信と勇気を持ち、自分の限界を知る体験ができること、五感を使って独自の感覚を体験できること等が記されている。そのため、実践と理論の積み重ねが重要であり、その価値を受け入れる柔軟な行政の対応しており、行政も保育の質も重視していることが考えられた。加えて運営するにあたり資金調達に深刻な問題であるといえるが、認可を得るにあたり、連盟会長理事が語るように情熱的な保育者、保護者の存在、そして行政の協働が必要不可欠であろう。

また、保育課からも、保育の質に関して語られた。

「森の幼稚園の定義としては、森と自然の幼稚園であるということです。森もあれば野原、広場の場合もあります。バイエルンでは公立の基準と森の幼稚園の基準の区別はないです。（中略）特にいうべきこととして3歳以下は6時間以上がお昼寝の時間が必要です。それ（お昼寝）がどういう風になされるか、それがされていればそれ以外是一緒です。他の幼稚園との違いは、外で保育することが違います。

バイエルン州も補助の申請を出せば補助、保護者のイニシアティブで補助金が出ます。安全管理については、食品面では、衛生局で、火災は建設局が担当しています。教育局が管理しているのは子どもたちの健康、健全な育成、例えば虐待をしていないとか、そちらを担当しています。児童保護計画（Kinderschutzkonzept）に違反していないかを気を付けているか、安全管理研修などです。森の幼稚園では火災、事故、どう道案内できるか、消防車などです。森といってもどこかわからないので…また救急（応急処置：Erste Hilfe）の方法知っていることが大事です。（保育課担当者）」

保育課からも、子どもたちが毎日、開園時間中は森で過ごしていることが既存の幼稚園との最大の違い（e.g., Kuhlmann 2004, Schäffer & Kistemann 2015）であることも先行研究とも一致して語られていた。また、児童保護計画（Kinderschutzkonzept）に関しては連邦法にも記載があるように各園で作成することが求められており（e.g., Bundesministerium der Justiz：連邦司法省 2023；IFP 2024）、子どもへの身体的暴力や性的暴力等といった虐待に

ついて、施設管理の子どもへのリスク等の子どもを守るために作成されるものである (e.g., Pontius 2021; Reddel 2023)。そのような規則に違反をしていないか、森の幼稚園では森の中で保育を行う場合の火災、事故等の対応、緊急時どう道案内できるか、消防車等が入れるか応急処置の方法を知っていることが重要であることが語られた。Flores (2014) によると、連邦法に従っていることや、国家公認の有資格者が必要であること、自然の中で活動する際の一時的な避難場所の記載が示されており、既存の幼稚園同様の一定の質が担保されていること、また林務部局等と連携すること等の核となる部分は、どの州においても変わりはないという。

重要なことは、このように園舎(建物)があるかないかが議論になるのではなく、そこですで行われている実践において保育の質という側面での保障がされていること、その目の前にある現場の声に耳を傾けた結果、認可に至っていることが考えられた。また、森、自然の中でどのように子どもの安全を確保するかというような安全管理に関しては各園で工夫をしたり研修を行ったりして補っていることが重要であることが考えられた。安全管理に関する研修会については、連盟の語りの中でも散見されており、より良い質の確保のためには重要であるといえよう。

3. 3 ESDとの関連性

IFPを訪問の際、担当者であるDagmar Winterhalter-Salvatore氏、Claudia Goesmann氏、Anke Wolfram氏の3名からESDや自然体験に関する資料が提供された。それらの資料をもとに、インタビューを実施した。ここで、明らかになったことは、幼児期のESDの重要性や森の幼稚園とESDの関連性についてである。

インタビューでは、保育施設におけるESDの実践について報告がなされ、SDGs(持続可能な開発目標)の必要性や17の目標に対する意識を保育施設において高めることの重要性について語られた。ESDの取り組みについては、ドイツの連邦レベルの政策文書(JFMK 2021, KMK 2022)にも、州の教育計画(Bayerisches Staatsministerium für Arbeit und Soziales, Familie und Integration & Staatsinstitut für Frühpädagogik 2019)にも、その重要性が明記されているが、その中でも幼児期の段階においてESDを実践する際の手掛かりとなる文書『幼児期のESD枠組』

(Referenzrahmen für die frühkindliche Bildung Bildung für nachhaltige Entwicklung)の内容について紹介がなされた。本文書では、「保育者の役割は、環境と身の回りの世界を子どもたちが自主的に探求することを支援し、科学的思考の基礎に関心を持たせ、価値観の発達を促し、行動する意識を高め、参加の場を開くことである」(Forum Frühkindliche Bildung 2020:7)とされている。また、園全体を把握するために3つの段階として、人材育成をはじめとした「①リードするプロセス(Führungsprozesse)」, 教育活動などを指す「②核となるプロセス(Kernprozesse)」, 持続可能な運営などによる「③支援のプロセス」について説明がなされた。なお、園で取り組むことのできる持続可能性に関するテーマの例として、「公平とグローバル」「自然・森・草地」「気候」「交通」「栄養と家庭菜園」「ゴミ」が提示された。そのうち、気候に関する教材の紹介も併せてなされた。さらに、ESD実践を進めるにあたり、森の幼稚園の保育内容が持続可能な社会の発展の基礎となることが説明された。中でも、自然体験の意義については、下記の点が示された。まず、自然の中では、子どもたちは驚嘆し、物事を試し、探究し、発明し、創造することができる点である。また、多くの研究が、自然の中で過ごすことが子どもの精神的・社会的・心理的発達に良い影響を与えることを示しており、環境に対する意識にもよい影響を与えることが明らかになっている。具体的には、自然との濃密な関わりによる環境意識、自然の中での安らぎと静けさ、季節や天候の変化による五感への刺激、自然物を使った創造遊びなどである。最後に、ESDの事例紹介として、「エコキッズ(Ökokids)」や「一つの世界(Eine Welt)」という団体のプロジェクトについて紹介がなされた。この2つの団体では、バイエルン州内の保育施設のESD実践を支援するとともに、園同士をつなぐネットワークとなっている。

これらのことから、世界的にもドイツ国内においても持続可能な社会構築が大きな課題として認識されており、幼児期の教育が果たす役割の重要性が強く求められていることが改めて示された。さらに、このような背景の中、森の幼稚園の保育は持続可能な社会の発展を支える基盤になることが強調された。

4 おわりに

4. 1 総合考察

本研究では、ドイツ・バイエルン州の森の幼稚園連盟、ミュンヘン市保育課当局の担当者、IFPの担当者へのインタビューを通して、バイエルン州で森の幼稚園が認可に至るまでの歴史的プロセスを明らかにしてきた。調査を通して明らかになったのは、以下の3点である。

第1に、バイエルン州においては、2005年から幼稚園等他の就学前施設と基本的に同様の構造で森の幼稚園の認可が行われており、森の幼稚園と「幼稚園」とは同等の教育機関であることが認められているということである。認可

の基準となる児童教育法及びバイエルン州の教育要領の改定の時期に合わせ、森の幼稚園も認可対象に含めることを念頭に、改定が行われたことが明らかになった。改定の過程では、州議会においても「森の幼稚園は園舎（建物）がない幼稚園」であることが確認され、教育要領の改定においても、森の幼稚園関係者の意見を入れて改定されるなど、森の幼稚園のコンセプトを理解・重視した法改正が行われたといえる。

第2に、森の幼稚園が認可対象として認められるに至るまでの行政に対する働きかけの過程において、幼稚園と同等のレベルの保育が行われていることを理解してもらうために、保護者、保育者、連盟等が協力して森の幼稚園の保育の質の高さを訴えたことである。森の幼稚園の保育の質が他園に引けを取らないことだけでなく、安全管理や自然の中で行われる保育の意義を訴えることにより、園舎の有無といった施設基準にこだわらず、保育の質を重視して認可を行おうとする行政の理解を引き出すことにつながったといえる。

第3に、IFPの担当者の語りを通して、ESDの実践を進めるにあたり、森の幼稚園の保育内容が持続可能な社会の発展の基礎となることが示された。季節や天候の変化による五感への刺激等が、子どもの精神的・社会的・心理的発達に好ましい影響を与えるだけでなく、自然との日常的かつ濃密な関わりは環境を保全する意識の醸成につながることから、森の幼稚園の保育実践は子どもたちのSDGs（持続可能な開発目標）に対する意識を高め、持続可能な社会を見据えた行動の主体を育むことを期待されているといえる。

本研究で得られたこれらの知見は、今後、日本において森のようちえんの認可を国に求めていく際にも、重要な指標となるであろう。日本の森のようちえんが認可を受けにくい背景には、幼稚園設置基準の中で園舎の設置基準が強い拘束力を持つことが挙げられる。園舎を持たない日本の森のようちえんが、今後、公的な認可を受けるための手がかりとして、森の幼稚園の保育の質に着目し、その教育的効果を多様なチャンネルを通して行政に訴えてきたバイエルン州の歴史的過程には学ぶところが大きいといえる。

4. 2 課題と限界

本調査では、ドイツ・バイエルン州の関係機関への聞き取り調査を通して、バイエルン州の森の幼稚園の認可のプロセスを明らかにしたが、ドイツは連邦制をとっているため、本研究で得られた知見は他の州には必ずしもあてはまらない。ドイツの他の地域の認可過程については、今後さらなる調査が必要である。

付記

本研究は2020年度～2024年度科学研究費・基盤研究（B）（一般）「自然保育認定・認証制度の影響と効果に関する実証的研究」（課題番号20H01655）（研究代表者：山口美和）の研究成果の一部である。

また、本研究において大道（2023）の一部を引用している。

謝辞 インタビューにご協力頂きました連盟会長理事、会計理事、及び保育課のご担当者様、IFPの皆様、連盟への調査をサポート頂きました森の幼稚園運営者であるOliver Vornberger氏、IFPへの調査のサポートを頂きましたSigrid Lorenz博士、及び通訳者のベルガー有希子氏、木津麻理子氏に心よりお礼申し上げます。

注

- 1) 森の幼稚園の名称に関しては、森以外の様々な草原、農場、海等の森の幼稚園が存在するため、自然幼稚園（Naturkindergarten）自然保育施設（Naturkindertagesstätte）、など様々な呼称が見られる。本稿ではそれらの総称として「森の幼稚園」という表記を用いる。
- 2) 2008年の児童教育法の改正以前も、NRW州では森の幼稚園は公的に認可された園として運営されてきた（木戸 2015）。なお、2019年に改正、2020年から施行された同法においても、森の幼稚園に関する記載内容に大きな変更は見られない（KiBiz 第35条及び第36条）。
- 3) バイエルン州をはじめとした連邦州の就学前教育の特徴については坂野（2016）に詳しい。
- 4) 森の幼稚園の連盟は、ノルトライン＝ヴェストファーレン、バイエルン、ヘッセン、ラインラント＝プファルツ、バーデン＝ヴュルテンベルクの5州と、ドイツ全体の連盟がある（連盟会計理事インタビューより）。
- 5) ドイツでは人員不足が深刻な問題となっているが、最低基準として「保育者（人）：子ども（人）」の割合は、0歳児は1：2、満1～満2歳は1：3また4、満3～就学前は1：9と示されている（Kemperetal. 2022）。ただし、連邦制のため実際の人数配置等の基準は各州、自治体により異なる。
- 6) ドイツの保育の質に関しては、連邦政府よりどの州でも保育の質が担保されることを目指し2019年に「保育の質および参加の改善のための法律（KiTa-Qualitäts- und Teilhabeverbesserungsgesetz：KiQuTG）」が施行され（BMJV 2022）、2024年も継続した支援（Bundesministerium für Familie, Senioren, Frauen und Jugend：BMFSFJ：ドイツ連邦家庭・高齢者・女性・青少年省 2024）保育者の人数配置や言語教育等に関する保育内容も重視されている。

- 7) ドイツの森の幼稚園では保護者が設立に携わり運営することが多いが、自治体や協会等が運営していることもある (Schutzgemeinschaft Deutscher Wald – SDW 2024)。

引用・参考文献

- American Forest kindergarten Association (n.d.) History, Retrieved August 20, 2024, from <https://www.forestkindergartenassociation.org/history>.
- Bayerisches Staatsministerium für Familie, Arbeit und Soziales / Statsinstitut für Frühpädagogik (バイエルン州家庭・労働・社会省 / バイエルン州幼児教育研究所) (2019) “*Der Bayerische Bildungs- und Erziehungsplan für Kinder in Tageseinrichtungen bis zur Einschulung*”, Retrieved August 31, 2024, from <https://www.ifp.bayern/files/media/ifp/public/books/bildungs-erziehungsplan/6/index.html>
- BayKiBiG : Bayerischen Kinderbildungs- und -betreuungsgesetzes (2023) Bayerischen Kinderbildungs- und -betreuungsgesetzes (Kinderbildungsverordnung – AVBayKiBiG) Vom 5. Dezember 2005, Retrieved August 31, 2024, from <https://www.gesetze-bayern.de/Content/Document/BayAVKiBiG>
- Bickel, K. (2001) *Der Waldkindergarten: Konzept, pädagogische Anliegen, Begleitumstände, Praxisbeispiel* Wyk aud Föhr, NordenMedia.
- Bundesministerium der Justiz und für Verbraucherschutz : BMJV : ドイツ連邦司法・消費者保護省 (2023) Sozialgesetzbuch (SGB) – Achstes Buch (VIII) – Kinder- und Jugendhilfe – (Artikel 1 des Gesetzes v. 26. Juni 1990, BGBl. I S. 1163) § 45 Erlaubnis für den Betrieb einer Einrichtung. Retrieved August 28, 2024, from https://www.gesetze-im-internet.de/sgb_8/_45.html
- Bundesministerium der Justiz und für Verbraucherschutz : BMJV : ドイツ連邦司法・消費者保護省 (2022) Gesetz zur Weiterentwicklung der Qualität und zur Verbesserung der Teilhabe in Tageseinrichtungen und in der Kindertagespflege (KiTa-Qualitäts- und -Teilhabeverbesserungsgesetz – KiQuTG). Retrieved August 30, 2024, from <https://www.gesetze-im-internet.de/kiqutg/BJNR269610018.html>
- Bundesministerium für Familie, Senioren, Frauen und Jugend : BMFSFJ : ドイツ連邦家庭・高齢者・女性・青少年省 (2024) *Monitoringbericht zum KiQuTG 2023*. Retrieved August 30, 2024, from <https://www.bmfsfj.de/resource/blob/235362/67fa706e1f37d30cfe7c0d101e06092/monitoringbericht-zum-kiqutg-2023-data.pdf>
- Bundes Verband der Natur und Waldkindergarten e.V. : BvNW : ドイツ自然及び森の幼稚園連盟 (2024a) Geschichte. Retrieved August 19, 2024, from <https://www.bvnw.de/ueber-uns/geschichte>
- Bundes Verband der Natur und Waldkindergarten e.V : BvNW : ドイツ自然及び森の幼稚園連盟 (2024b) Natur- und Waldkindergärten in Bayern. Retrieved August 19, 2024, from <https://www.bvnw.de/natur-und-waldkindergaerten/deutschland/bayern>
- Fachhochschule Kiel (2024a) Auszeichnung als UN-Dekadeprojekt "Bildung für nachhaltige Entwicklung" Retrieved August 28, 2024, from <https://www.fh-kiel.de/studium/studienangebot/institut-fuer-weiterbildung/programm/naturspielpaedagogik/auszeichnung-als-un-dekadeprojekt-bildung-fuer-nachhaltige-entwicklung/>
- Fachhochschule Kiel (2024b) Natur Spielpädagogik, Retrieved August 28, 2024, from <https://www.fh-kiel.de/studium/studienangebot/institut-fuer-weiterbildung/programm/naturspielpaedagogik/>
- Fachhochschule Kiel (2024c) Natur- und Umweltpädagogik, Retrieved Oktober 18, 2024, from <https://www.fh-kiel.de/studium/studienangebot/institut-fuer-weiterbildung/programm/naturspielpaedagogik/natur-und-umweltpaedagogik/>
- Forum Frühkindliche Bildung Nationale Plattform Bildung für nachhaltige Entwicklung c/o Bundesministerium für Bildung und Forschung Referat Bildung in Regionen; Bildung für nachhaltige Entwicklung (2020) “*Referenzrahmen für die frühkindliche Bildung Bildung für nachhaltige Entwicklung*”, from https://www.bmbf.de/SharedDocs/Publikationen/de/bne/referenzrahmen-fuer-die-fruehkindliche-bildung.pdf?__blob=publicationFile&v=4
- Flores, U. (2014) *Bildung für nachhaltige Entwicklung im Waldkindergarten – umgesetzt durch die Methoden der Natur Spielpädagogik*, Bachelor-Thesis. Retrieved April 15, 2022, from https://www.fh-kiel.de/fileadmin/data/weiterbildung/programm/bildung-fu__776_r-nachhaltige-entwicklung-im-waldkindergarten-_umgesetzt-durch-die-methoden-der-naturspielpa__776_dagogik.pdf
- 後藤みな (2016) 「I. ミクリッツにみる森の幼稚園教師に求められる知識と技能：領域「環境」との関連に着目して」, 『日本科学教育学会研究会報告』 30, 6, 79-84.
- Henkel, S. (2006) *Waldkindergärten in Deutschland: Ist diese Reformpädagogik eine Alternative in der Vorschulerausbildung?*. GRIN Verlag GmbH.
- Staatsinstitut für Frühpädagogik und Medienkompetenz : IFP (2024) Kinderschutz in bayerischen Kindertageseinrichtungen. Retrieved August 28, 2024, from <https://www.ifp.bayern.de/projekt/kinderschutz-in-bayerischen-kitas/>
- Jugend- und Familienministerkonferenz (2021) / Kultusministerkonferenz (2022) : JFMK (2021) / KMK (2022) : 青少年家族大臣会議 (2021) / 常設各州文部大臣会議 (2022) Gemeinsamer Rahmen der Länder für die frühe Bildung in

- Kindertageseinrichtungen. Retrieved August 31, 2024, from https://www.kmk.org/fileadmin/Dateien/veroeffentlichungen_beschluesse/2004/2004_06_03-Fruhe-Bildung-Kindertageseinrichtungen.pdf.
- 木戸啓絵 (2010) 「現代の幼児教育から見たドイツの森の幼稚園」, 『青山学院大学教育人間科学部紀要』 1, 69-85.
- 木戸啓絵 (2015) 「ドイツにおける就学前施設の設立認可過程：森の幼稚園を事例として」, 『青山学院大学教育学会紀要』 59, 119-132.
- Kohler, B., and Schulte Ostermann, U. (2015) Der Wald ist voller Nachhaltigkeit: 21 naturpädagogische Projektideen für die Kita.BELTZ.
- Kommunalverband für Jugend und Soziales Baden Württemberg : KVJS (2017) *Jugendhilfe – Service Der Naturkindergarten Konzeption, Gründung und Betrieb*. Retrieved August 31, 2024, from https://www.kmk.org/fileadmin/Dateien/veroeffentlichungen_beschluesse/2004/2004_06_03-Fruhe-Bildung-Kindertageseinrichtungen.pdf.
- Kuhlmann, J. (2004). *Be-g-reifen im Wald – Ausführungen zum aktuellen Stand der Waldkindergartenpädagogik in Deutschl.* GRIN Verlag.
- Miklitz, I. (2015) Der Waldkindergarten: Dimensionen eines pädagogischen Ansatzes, (5. Auflage.), Cornelsen Schulverlage GmbH./国土緑化推進機構監修 (2018) 『森の幼稚園—ドイツに学ぶ森と自然が育む教育と実務の指南書—』 風鳴舎.
- 大道香織 (2023) 第1部 第2章 「ドイツにおける森の幼稚園—概念, 法制度や指針を中心として—」, 能條歩 (監修) 田中住幸 (編集), 『自然保育と環境教育・ESD』, 北海道自然体験活動サポートセンター, 40-61.
- 大道香織・山田千愛 (2022) 「ドイツの森の幼稚園における子どもに対する保育者の配慮」, 日本社会福祉マネジメント学会誌, 第2巻1号, 14-26.
- 大道香織・渡邊真帆・富田久枝 (2023) 「ドイツの幼児教育における自然活動に対する保育観—SCATを用いた保育者の語りの分析—」, 『国際幼児教育研究』, 30, 17-33.
- Pontius, M. C. (2021) Schutzkonzept. socialnet. Retrieved August 28, 2024, from <https://www.socialnet.de/lexikon/Schutzkonzept>
- Reddel, T. (2023) Kitas Kinderschutzkonzept Kita: Was gehört alles dazu und wie erstellt man es? – Online-Redaktion, Forum Verlag Herkert GmbH. Retrieved August 27, 2024, from <https://www.forum-verlag.com/blog-bes/kinderschutzkonzept-kita>
- 坂野慎二 (2016) 「ドイツにおける就学前教育の現状と課題」, 『玉川大学教育学部紀要』 2016, 19-47.
- Schmitz, S. (2017) Das wache Auge: Waldkindergarten “Zauberwald” in Idstein, Dr.-Ing. -Hans-Joachim-Lenz-Stiftung.
- Schutzgemeinschaft Deutscher Wald – SDW (2024) Waldkindergärten, Schutzgemeinschaft Deutscher Wald Landesverband Hessen e. V., Retrieved Augst 30, 2024, from <https://www.sdw-hessen.de/wald-entdecken/waldpaedagogik/angebote-im-wald/waldkindergaerten/>
- Schäffer, S. and Kistemann, T. (2012) German Forest Kindergartens: Healthy Childcare under the Leafy Canopy. Children, Youth and Environments, 22. 270-279.
- Wolfram, A. (2018) *Naturraum pädagogik in Theorie und Praxis*.Verlag Herder GmbH.
- 杉山浩之 (2015) 「「森のようちえん」の理念と研究課題」, 『広島文教女子 大学紀要』, 48, 13-27.
- 山本理人・千賀愛・安井友康・宮田浩二, 2013, 「ドイツで展開されている「森の幼稚園」における教師と子どもたちの関わり：「自己形成空間」という視点から」, 『北海道教育大学紀要, 教育科学編』 63, 2, 57-72.
- 百合草禎二 (2002) 「ドイツの「森の幼稚園」の実践と子どもの発達：森の中で育つ子ども」 『常葉学園短期大学紀要』 33, 135-165.
- Weisshaar, E., Schaefer, A., Scheidt, R. W. R., Bruckner, T., Apfelbacher, J. C., and Diepgen, L. T. (2006) Epidemiology of tick bites and borreliosis in children attending kindergarten or so-called “forest kindergarten” in southwest Germany, Journal of Investigative Dermatology 126, 584-590.
- Wang, Y. (2020) Reflections on China Triggered by the Forest Kindergarten in Kassel, Germany, Advances in Social Science. Education and Humanities Research, 480,47-50.

The approval process of the forest kindergartens in Bavaria, Germany: Through the Interviews with the Federation of Forest Kindergartens, the Administration, and the Institute for Early Childhood Education

Kaori OMICHI* · Hiroe KIDO** · Miwa YAMAGUCHI***

ABSTRACT

The purpose of this study is to examine the historical approval process of the Forest kindergartens in Bavaria, Germany, and to consider the important factors in the approval process. Narratives from the interviews with the State Association of Forest Kindergartens, which has been a pioneer in the licensing process in Germany, especially in Bavaria (Landesverband Wald- und Naturkindergärten in Bayern), the administration of the Childcare Division, which makes decisions about the licensing (Landeshauptstadt München Referat für Bildung und Sport Geschäftsbereich KITA), and the State Institute of Early Childhood Research and Media Literacy (Staatsinstitut für Frühpädagogik und Medienkompetenz : IFP) were examined. The results revealed three points: the structure of the licensing process in the Bavarian Forest kindergartens, the quality of the childcare in the Forest kindergartens, which has to be on a par with the educational guidelines, and the relevance of the Education for Sustainable Development (hereafter referred to as ESD). The first point is that the approval process for the Forest kindergartens has basically the same structure as that for the other preschool facilities. The operating criteria for the Forest kindergartens, due to the fact that they do not have their own building, are based on the Bavarian Child Education Act (BayKiBiG), the Bavarian Education and Training Plan (BayBEP), and how the changes were made after the trial and error for the approval of the Forest kindergartens. Second, the parents, caregivers, associations, and other stakeholders worked together to demonstrate to the administration that the quality of the childcare was guaranteed to be on par with the guidelines for education. The administration's emphasis on the quality of the childcare led to the approval of the Forest Kindergarten. Third, the relevance of the Forest Kindergarten for ESD was discussed in the IFP. In particular, the importance of the value of the nature experiences was discussed, pointing out that Education at the Forest Kindergarten was the foundation for the Sustainable Development. In this context, the recognition of the Forest kindergartens has been promoted.

Keyword

Forest Kindergarten, Bavaria in Germany, Approval Process, interview